

『 ^{もうこりた}忘己利他は、慈悲の極みなり 』

いささか旧聞になりますが、正月に海外でNHKのテレビを見ていましたら、瀬戸内寂聴さんのテレビ対談が出てきました。ご覧になった方もおられると思いますが、その中で彼女は、「忘己利他は、慈悲の極みなり」とおっしゃっておられました。

忘己利他とは、自己を忘れて、つまり、己を無にして他人を利する、の意で、分かりやすく言えば、反対給付を求めないで相手の為に尽すということでしょうか。

人は多くの場合、反対給付を意識して行動しがちですが、お返しを意識しないで相手の為に尽すのは中々出来ないことで、親が子にする行為がその典型ではないでしょうか。（最も、最近はそうではない状況が多く見受けられますが）

「慈悲」とは、仏教用語で、仏が衆生をあわれみ、いくつしむ心のことですから、他人に対して忘己利他が実践出来れば、これはもう、仏になったのと同じですよ、と言われている訳です。

ところで、日々、業務に追われる中小企業の経営者やそこに働く社員の皆さんは、こんな話をすると、そんなのは、理想論で現実離れしているヨ、と一蹴されそうですが、日々の仕事に埋没されがちだからこそ、このような心の清涼剤が必要なのではないのでしょうか。

現実より一歩離れて距離を保ち、頭（こうべ）を上げて青い空を眺め、緑の山を見る、そして、胸一杯、忘己利他を吸い込むと、心はさわやかとなり、新たな視点が、また、開けてくるかも知れません。

不摂生な生活をしていると、血管にいろんな不純物が付着して動脈硬化となり、やがて、心筋梗塞や脳梗塞の要因となります。これは、肉体のことですが、心の動脈硬化を防ぐためにも、このような話を素直に聞く姿勢が必要だと感じました。

（2月1日の全体会議の講話より）